



国土交通省は立野ダムの説明責任を果たせ！



立野ダム中止署名提出(県庁) 2014.3.14

熊本が世界に誇る阿蘇の外輪山の唯一の切れ目に、高さ90 mもの立野ダムがつくられようとしています。立野ダムは洪水調節だけを目的とし、ダムの下部に穴が開いているので農業利水にも発電にも役に立ちません。

白川流域に住む多くの人たちは、「立野ダムはどんなダムで、何を目的につくられるのか、どこにできるのか聞いていない」というのが実情です。にもかかわらず、事業主体である国土交通省は、住民が要望している立野ダムの説明会を開催しようとしません。また、「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」が

国土交通省に説明を求めた集会さえも、同省は出席を拒否しました。

さらには、住民団体が繰り返し提出した立野ダムに関する質問状にさえ、きちんと回答しようせず「当所のホームページを見るように」との見解を繰り返すばかりです。国は住民に対し、立野ダムについての説明責任を果たしているとはとても言えません。

立野ダムの総事業費は、当初予算の2倍以上の917億円に膨れ上がりました。熊本県の負担額は917億円の3割、275億円（県民一人あたり約1万5000円）にもなります。公共事業は本来、住民の税金により、住民のために行われるべきものです。事業者には当然、説明責任があるはずで

国土交通省は、これから立野ダム本体をつくるために白川の流れを変える仮排水路トンネル工事に着手するといっています。説明も不十分なままダムができれば、将来に大きな禍根を残しません。国土交通省は説明責任を果たすべきです。

●7980人分の立野ダム中止署名提出！

私たちがこれまで街頭などで集めてきました、立野ダム建設中止を求める署名7980人分を、3月14日に県と国あてに提出しました。これまで下通りなどで署名活動を行っていましたが、関心を持つ方も徐々に増えてきたように感じます。これからも署名活動を継続しますので、今後ともご協力をお願い致します。

●立野ダムをめぐる動き 2013年9月～2014年3月

- 2013年9月11日(水) 白川の改修を考える住民集会(託麻北コミセン) 40名参加
9月16日(月) 署名活動(場所:下通り、銀座通り交差点)
9月20日(金) 連続シンポジウム part3「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」160名参加
9月24日(火) 日本ジオパーク委員会、阿蘇を世界ジオパークに推薦決定
9月29日(日) 立野峡谷キャニオニング 40名参加
10月1日(火) 国土交通省に公開質問状提出
10月17日(木) 国土交通省より「質問状には回答しない」と回答あり
10月27日(日) 南阿蘇村学習会(久木野庁舎) 100名参加
11月15日(金) 国土交通省に「立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状2」提出
11月26日(火) 下津久礼公民館で学習会 20名参加
11月29日(金) 立野ダムを考えるつどい(主催:県議の会) 80名参加
11月30日(土) 署名活動(場所:下通り、銀座通り交差点)
12月25日(水) 立野ダム来年度予算34億円

- 2014年1月16日(木) 立野ダム計画の説明責任を求める要望書を県に提出
1月25日(土) 署名活動(場所:下通り、銀座通り交差点)
1月26日(日) 南阿蘇村ビラ配り、34名参加、約3000枚配布
2月5日(水) 県庁前ビラ配り、20名参加、約800枚配布
2月22日(土) 署名活動(場所:下通りダイエー前)
3月14日(金) 県と国に立野ダム建設中止を求める署名提出(7980人分)



南阿蘇村ビラ配り 2014.1.26



県庁前ビラ配り 2014.2.5

●立野峡谷キャニオニング



立野峡谷キャニオニング 2013.9.29

9月29日に立野峡谷キャニオニングを体験しました。ウエットスーツとライフジャケットを着用し、白川の鮎帰りの滝をスタート。途中、溪流に身を任せたり、大きな岩から飛び込んだりしながら白川を下りました。特に白川の右岸側から噴き出す地下水や温泉の多さには驚きました。白川と黒川の合流地点の河原でお弁当を食べた後は、黒川をロープにつかまったりしながら上ります。約4時間かけてゴールに到着。白川と黒川の水も澄んでいて、とてもきれいでした。多くの人にぜひ体験してほしいです。

●連続シンポジウムpart3に160人参加

9月20日、連続シンポジウム part 3「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」は約160名の参加で、会場の市民会館大会議室はほぼ満席となりました。

立野ダム問題の概要説明のあと、南阿蘇村に住む原田秀夫さんが、立野峡谷を泳いで下るキャニオニングについて紹介。白川漁協元理事の西島武継さんも「白川にはウナギやアユなどたくさん生き物がいる。川の環境を守りたい」と発言。中島代表は「徐々に活動の認知度が上がっている。立野ダムを熊本市民の問題として考えてもらいたい」と訴えました。

●南阿蘇村での学習会に100人参加



南阿蘇村での学習会 2013.10.27

10月27日、立野ダム建設予定地の南阿蘇村で初の学習会を開きました。同村の久木野庁舎は、約100名の参加で満席となりました。

地質に詳しい熊本学園大准教授の新村太郎さんが、阿蘇のカルデラや、マグマが冷えてできる「柱状節理」などについて説明。ダム建設には「地質構造をもっと疑って考えるべき。学術的に貴重な物も失われてしまいかねない」と指摘しました。

立野溪谷を泳いで下るキャニオニングツアーをする原田秀夫さんは「海外の人も感動する場所。どうあるべきかを考えなければいけない」と語りました。

2012年9月、同会場で国土交通省による立野ダム公聴会が行われました。住民にほとんど周知されていなかったこともあり、参加した住民はごく少数でした。立野ダムに関する住民の意識が変わってきていることが実感できる集会でした。

●阿蘇ジオパークと立野ダム計画

阿蘇地域が世界ジオパークに推薦されることになりました。非常に喜ばしいことですが、大きな懸念があります。

阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野峡谷は、阿蘇ジオパークの重要なジオサイトの1つです。立野峡谷でカルデラが切れた原因は、峡谷を走っている断層や浸食によるものですが、これまでに何度か溶岩で埋まったことがあり、その時にはカルデラ内に湖が形成されました。

立野峡谷の右岸側に見られる、柱状節理（溶岩の冷却時にできた割れ目）が発達した立野溶岩には、溶岩と溶岩の間にいくつもの不連続面が見られ、阿蘇形成の歴史がここに凝縮されています。対岸は国の天然記念物である北向谷原始林です。立野峡谷の美しさと谷の深さには目を見張るものがあります。

ところが、この立野峡谷に、国土交通省は高さ90mもの立野ダムの建設を計画しています。立野ダムが建設されると、立野峡谷の貴重な地質遺産、そして自然遺産が破壊されます。地質遺産を確実に保護することも、ジオパークの大きな目的です。世界ジオパーク推薦を機に、立野ダム計画の必要性と立野峡谷のすばらしさについて、みんなで考える必要があります。



白川漁協をめぐる動き

白川漁協は3月16日、大津町で臨時総会を開き、立野ダムの建設工事に伴い漁業権が一部の区間で消滅することなどに対して、国が示していた約5500万円の補償案を受け入れることを了承しました。

臨時総会に先駆け、漁協執行部は漁協組合員に十分な説明もせずに委任状や書面議決書を取得。臨時総会には、議決権を持つ正組合員236人のうち193人（委任状9人、書面議決書123人を含む）が出席。出席者からは「国交省から説明を聞いてからでもよいではないか」「時期尚早」などの声が出ましたが、議長の強引な議事進行により172人（委任状9人、書面議決書119人を含む）が賛成。重要案件の了承に必要な3分の2を上回りました。

白川漁協との漁業補償交渉は、立野ダム建設を進める上で重要な手続きです。にもかかわらず、国土交通省は漁協組合員に十分な説明もせずに、補償交渉を進めていたのです。

●立野ダムは事業費・工期ともに大幅オーバー



署名活動(熊本市下通り) 2014.2.22

3月18日付の熊日新聞に、「国交省は仮排水路の工事に年内に着工する考え。2016年度中には本体工事にこぎつきたい意向」との表現がありましたが、それは誤りです。

国交省がこれから着手しようとしている仮排水路トンネル工事が出る土の捨て場が確定しないことには、仮排水路トンネル工事に着手することはできません。先日行われた土捨て場（圃場整備事業）の説明会で、「来年3月までに事業計画確定、その後仮排水路に着工。仮排水路工事には3年かかる」との説明があったとのこと。つまり、仮排水路が完

成し、ダム本体工事に着手するのは最短であと4年後、ということになります。地権者の同意が得られなければ、さらに工期は延びます。

2012年の立野ダム事業検証で、国土交通省は「立野ダム完成まで917億円と10年の工期が必要」と述べていましたが、国交省自身が資材費や人件費の高騰などを理由に事業費が膨らむ懸念を表明しています。立野ダムは、事業費も工期も大幅にオーバーするのは確実です。

編集後記 国土交通省は、立野ダムについて住民に説明しないまま、ダム建設を押し進めようとしています。住民は立野ダムについて知る機会は全くと言ってよいほどありません。まずは、立野ダムについて知っていただくために、同封のカラーチラシを作成しました。是非まわりの人たちに広めてください。チラシが必要な方は当会までご連絡ください！

4月16日（水）午後6時半より、パレアホール（鶴屋東館10階）にて、「阿蘇を世界文化遺産に」白川郷から学ぶお話を聞く会が開かれます。合掌造りの集落で知られる岐阜県の白川郷は、1995年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。白川郷観光案内人の上手重一さんのお話を聞き、世界文化遺産登録をめざす阿蘇にとって、今必要なことは何なのか、みんなで考えたいと思います。多数のご参加をお待ちしております。（N.O.）